

今週（10月22日から10月26日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の日銀当座預金残高は需給の大きな変動要因がなく、週を通して395兆円前後で推移した。この間、無担保コールO/N物は、積み期間前半で調達サイドがやや引き気味であることや、運用サイドの投信業態で運用金額が増えていること等を背景に、全般的にレートは低下基調で推移した。

無担保コールO/N加重平均レートは、一部の先でプラスレートでの試し取りが行われた24日を除いて、▲0.07%近辺で推移した。業態別では週を通して地銀業態で▲0.085～▲0.035%、都銀・信託・証券・外銀業態で▲0.086～▲0.075%での出会いが見られた。ターム物はショートタームで▲0.03%台の出会いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは26日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,142億円（期落ち額1,841億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.160～▲0.110%のレンジでの取引となった。業者の売物は然程多くない中、週前半は▲0.140～▲0.110%近辺での引き合いであったが、週後半にかけては利国のオペの影響により、業者の売物はさらに減少し、▲0.160～▲0.140%近辺と低下傾向で推移した。

SC個別銘柄では5y130～136、10y334～352、20y160～166、30y50～60、40y11などのカレント銘柄近辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き償還日が年末越えとなる3M物中心に、低水準のレートで推移するマーケットとなった。23日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。月初から4回連続で3M物入札の2営業日後のオファーとなった。引き続きレートが低水準で推移していることから買入額は少額にとどまり、按分落札利回較差+0.005%、平均落札利回較差+0.008%と弱めの結果となった。

26日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.33%から▲0.37%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.3211%、按分落札利回▲0.2958%とWI取引を反映し、引き続き低いレート水準での決着となった。

●CP市場

今週のCP市場は、輸送用機器・石油・卸売業態等からまとまった案件が実施され、週間償還総額4,000億円程度に対して、週間発行総額は7,500億円程度と発行超のマーケットとなった。CP市場残高は現在、前年度比2.5兆円程度多い18兆円台前半と高い水準で推移しているものの、期間が長い発行が増えているためか、日々の発行件数はそれほど増加していない。投信等の買いニーズが底堅いため、発行レートはほぼ横ばいで推移している。

26日にはCP等買入オペがオファー額2,000億円で実施された。買入対象となる銘柄が多かったこともあり、結果は平均落札レート0.002%・按分レート▲0.002%と前回（平均▲0.001%・按分▲0.004%）比で両レートとも若干の上昇となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/22 (月)	22,614.82	0.150	112.45	△ 0.069	△ 0.134	3,951,300
10/23 (火)	22,010.78	0.145	112.75	△ 0.069	△ 0.133	3,949,100
10/24 (水)	22,091.18	0.130	112.44	△ 0.057	△ 0.139	3,945,000
10/25 (木)	21,268.73	0.110	111.95	△ 0.069	△ 0.157	3,953,900
10/26 (金)	21,184.60	0.110	112.41	△ 0.071	△ 0.155	3,954,700

来週（10月29日から11月2日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/29 (月)	9月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)		9月の米個人所得・消費支出
10/30 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 9月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 9月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	交付税借入 10,500億円 11/9借入	8月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 10月の米CB消費者信頼感指数 7-9月期のユーロ圏GDP速報値
10/31 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望 9月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 10月の消費動向調査(内閣府 14:00) 9月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)		10月のシカゴPM景況感指数 10月のユーロ圏消費者物価指数速報値
11/1 (木)		10Y 22,000億円 11/2発行	英中銀MPC結果発表 9月の米建設支出 10月のISM 製造業景況指数
11/2 (金)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 10月のマネタリーベース(日銀 8:50)	TB3M 43,000億円 11/5発行	10月の米雇用統計 9月の米貿易収支 9月の米製造業新規受注・出荷・在庫

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/29 (月)	200	▲ 2,800	▲ 2,600	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完		11,100 2,100 600 1,300	13,100	10,500	TB3M発行▲43000償還41700
10/30 (火)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
10/31 (水)	▲ 200	▲ 1,200	▲ 1,400	CP買入		2,000	2,000	600	
11/1 (木)	0	▲ 24,000	▲ 24,000				0	▲ 24,000	2Y発行▲21000
11/2 (金)	▲ 1,000	▲ 25,000	▲ 26,000				0	▲ 26,000	税保険料揚げ 普通交付税 10Y発行▲22000 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 2,000	▲ 51,000	▲ 53,000	—	▲ 700	15,800	15,100	▲ 37,900	

10/29は日銀予想、10/30以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き参加者の資金調達ニーズが弱くレートは低位横ばいの推移が予想される。資金需給を見ると、29日に短国3Mの発行償還、1日に2年債の発行、2日に10年債の発行、消費税・法人税・年金保険料・労働保険料揚げ、普通交付税の払いが予定されている。レボ市場は、GCは業者の売物が引き続き少ない中、▲0.160～▲0.120%のレンジでの推移と予想する。短国市場は、11月2日に3M物の入札が実施予定となっており、海外勢の動向が注目される。CP市場は月末発行があり一定の盛り上がりが見込まれるものの、年末資金需要を考慮しながらの発行になると考えられ、発行増は限定的なものになると考えられる。

主要なイベントとしては、国内では30～31日に日銀金融政策決定会合、海外では30日に7-9月期のユーロ圏GDP速報値、31日に10月のユーロ圏消費者物価指数、1日にMPC結果発表、2日に10月の米国雇用統計等の発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品の取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品の取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。